

「抗炎症剤の選び方・使い方」第3版

水 島 裕・柏 崎 禎 夫

疼痛、腫脹、発熱、炎症などの随伴症状を有する疾患は多く、膠原病を含む慢性関節リウマチ、関節炎、代謝疾患、感染症、悪性腫瘍など、各科の広い領域にわたる。

原因のいかんを問わず鎮痛消炎剤、下熱などに対して非ステロイド系鎮痛消炎剤、抗炎症剤の投与は臨床医にとって必要欠くことのできない薬剤である。近年、これらの薬剤の開発は目覚ましく、その種類も多く、剤型、作用機序、投与ルートにもそれぞれに特徴があり、したがって投与に際し薬剤の使い方、選び方が重要となる。非ステロイド系鎮痛消炎剤、抗炎症剤の使用についてはその使い方、選び方は一般的に安易に習慣的に使用されていることも否定はできない。もし薬剤の使い方、選び方につき簡単明瞭で理解しやすく、まとまった成書があれば実地医家、勤務医にとってどれほど役立つこと

かと平素から熱望されているのが現状である。

その意味において本書はまさに実地医家、勤務医が待ち望んでいたものであると言っても過言でない。

本書の特徴は経験豊かな水島、柏崎両教授の対談方式で全編が完成していることである。内容については、タイトルの分類が簡潔明瞭であり第1編から第9編に分類され対談方式になっているため、いずれの項目から読み始めても理解できること、したがって肩が凝らないで一気に通読できる他に類をみないユニークな成書と言えよう。

まず巻頭に薬剤を使用するうえで理解しておかなくてはならない炎症の作用機序を中心として取り上げ、その内容も教科書的な叙述専門的な解説をできるだけ避けるように努力され、理解しやすく解説されている。また薬剤の使い方を総括的に理

解するために薬剤の種類、特性を分類別に、作用機序、薬剤のメリット、デメリット、副作用とその対策、症状のステージに応じての薬剤の選び方、投与方法などを原則論として述べ、また、疾患別に薬剤の使い方のコツ、選択のポイントが述べられていることは、われわれ実地医家、勤務医にとって有益であり、必読に値する。また、薬剤の使用上知っておかなくてはならない薬物相互作用についても有効または有害な相互作用を来す薬剤を種類別に解説し、また、最近特に開発進歩の目覚ましい非ステロイド系鎮痛消炎剤の剤型変更、drug delivery system, prodrug などについても理解しやすく説明されている。

本書は全編を通し対談方式になっているため、内容が具体的で実地医家、勤務医はもちろんのこと、医薬情報担当者(プロパー)にとっても必読に値する座右の書として自信をもって推薦できる貴重な書物である。

(聖路加国際病院副院長
・整形外科部長)
三上 隆三

●A5判 236頁 1991年
定価 2,781円(税込) 送料 300円

医学書院 刊(☎03-3817-5657)